

編集後記

昨日、11月26日にインド最大の都市ムンバイでテロが発生した。毎日のように世界のどこかでテロが起こるため、テロのニュースに“鈍感”になりつつあるこのご時世であるが、今回は100人を越える多くの犠牲者がでたこと、その中に日本人が含まれていたことから、新聞、テレビで大きく報道されている。報道によると、占拠されていたホテルをやっと軍が制圧したようだ。私にとっても今回のテロはただ事でない。12月中旬にムンバイで開催される会議に呼ばれていたからである。ちょうどビザを取得し、航空券の発券も済ませたところであった。私のペンネームに関連するモデルを作った理論家を産み出したこの国には10年来、行きたいと思っており、その夢が叶う寸前の出来事であった。ムンバイでは厳戒態勢は続くと思われるのでしばらくテロは起きないという楽観的な見方もあるかもしれないが、家族、研究室の学生のことを思うと、そこまでリスクを冒して行くことはできない。

人類は皆、科学技術の発展で全てのことが便利になると信じてきた。国と国との“精神的”な距離がますます近くなり、世界のどこへでも行こうと思えば簡単に行けるようになってきてきた。ところが、9.11を境に歯車は逆に周りはじめたように思える。人間が飛ばなくてもインターネットで情報は運べる。私達研究者も例外無くインターネットの恩恵をいろいろな意味で受けている。例えば、海外の共同研究者のコミュニケーションも非常に早くなった。(そういえば私が学生のころは、インターネットが普及しはじめた頃で、通信に手紙やファックスも頻繁に使っていたが、手書きの英文が判読出来なくて苦労したことを思い出した。)しかし、顔と顔を合わせることは重要であることを我々は知っている。何回メールを交換しても、電話で話しても埒があかなかったことが、実際に会って対話することで簡単に解決する場面は多い。

何はともあれ世界に平和が訪れることを切に願う。

(直交ダイマー)